

2025 年 5 月 9 日

小林製薬株式会社 2025 年 12 月期第 1 四半期 決算説明会 質疑応答要旨

Q：2025 年 1Q の連結業績は会社計画より売上・営業利益ともに 10 億円上振れているとのことだが、その背景と通期業績への影響は？

A：売上については、国内と国際で約 5 億円ずつの上振れであり、国内は、年初のインフルエンザ流行や気温低下によるヘルスケア製品・カイロが好調だったこと、国際については、アメリカのカイロが厳冬により好調だったことが背景です。利益については、前述したヘルスケア製品が好調だったことによる利益増と、想定より費用を使わなかったことにより上振れております。通期の見通しについては、現時点では広告再開の影響を見極める必要があると考えております。今後もし想定と乖離が大きくなるようであれば、適切に開示いたします。

Q：2025 年 1Q の国際の業績は悪いように見受けられるが、計画通りなのか？

A：アメリカはカイロが好調でしたが、中国は発熱を伴うインフルエンザなどの感染症が流行せず、熱さまシート需要が低迷しました。東南アジアは昨年、各種感染症が流行し熱さまシートの需要が拡大しており、その反動や、各国での 2Q 以降への期ずれも影響しております。その結果、計画より国際トータルとして、売上は約 5 億円の上振れ、利益は計画通りとなっております。

Q：国際の中でも中国大陸はかなり悪いように見受けられる。通期の目標として中国大陸は昨年に比べて+20%の想定だが、2Q 以降は好調に伸ばしていける計画になっているのか？

A：中国大陸では、発熱を伴う感染症が流行らなかったことやアンメルツの出荷遅れが減収の背景ですが、熱さまシートに関しては、配荷・認知の拡大で今後もさらに伸ばしていけると考えています。アンメルツについても、販売代理店変更の影響により出荷ができておりませんが、5 月以降に出荷が発生する予定であり、しっかりと伸ばしていけると考えております。

Q：紅麹関連製品回収等に伴う特別損失として 7 億円を計上しているが、今後当期純利益の下方修正の可能性はあるか？

A：特別損失は、2Q 以降も幾らかは追加計上する可能性がございますが、資産売却等で当期純利益に関しても公表通りを目指します。

Q：広告再開は当初 4 月以降の予定であったのに、5 月にずれている背景は？

A：3 月の株主総会を経て発足した新経営体制において、再開の是非及びそのタイミングについて慎重に協議をし、今回の判断に至っております。

Q：広告再開では、先に企業広告から実施されとのことだが、もう少し具体的に教えていただきたい。

A：製品広告再開の事前に新聞等での企業広告を実施いたします。尚、その1度の企業広告にて当社に対する信頼が回復できるものとは考えておらず、今後も継続して信頼回復のための活動を実施していきます。製品広告については、5月以降、徐々に対象製品・媒体を拡大しながら再開する計画です。

Q：豊田新社長は海外経験のバックグラウンドが強みだと思うが、改めて海外に対する意気込みや海外戦略を教えてください。

A：まず、海外の中でも東南アジアはまだまだ伸ばせる余地があると考えており、さらに注力をしていきたいと思っております。北米は、Alva、Focus社を買収し、現地における開発機能を整えてきました。今後も人的投資を継続しブランドの強化を推し進めていくことで成長させていきます。

海外戦略については、8月に中期経営計画の方向性と長期ビジョンを公表する際にも、お話しさせていただきたいと思っております。

以上

【注意事項】

本資料に記載されている内容は、説明会での質疑応答内容をそのまま書き起こしたのではなく、当社の見解により加筆・修正等を加えて要約したものであり、その情報の正確性・完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがございます。なお、業績見通しや将来予測に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な不確定要因により大きく異なることがある旨、ご了承ください。